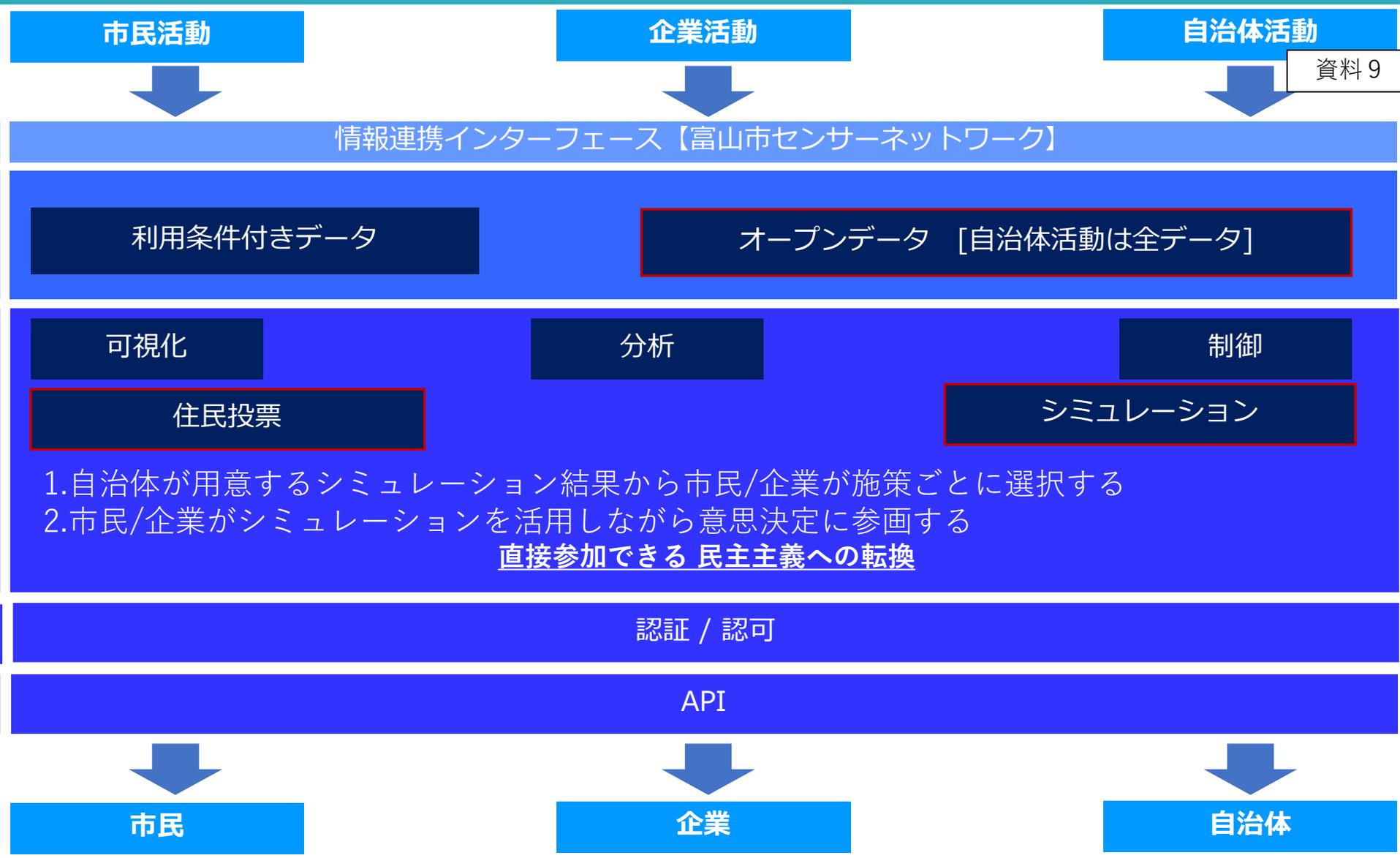


スマートシティの【将来…100年後?】イメージ

資料9



ポイント1	100年後も使えるインフラの策定・・・データ標準化など
ポイント2	市民・企業・自治体の意識づくり

論点1
コンパクトシティ政策の成果を活かしながら、どのように中山間地域を含めた持続可能な都市の将来像を描いていくか？

- 市役所に行かないまちづくり
 - ・ 電子申請利用促進(対応率でなく利用率)
 - ・ 内部手続きの電子化 可能な限りデジタルで完結
 - ・ データのオープン化, 決裁過程のオープン化
- 土地についての産業の活性化
 - ・ 土地についての部分以外をIoT / スマート化し、生産性をあげることで地域を活性化
(広い土地, 自然豊かな環境 = IoTのメリットが大きい)

論点2
どうすればスマートシティの推進を通じて市民や民間事業者が豊かさや利便性を実感することができるか？

- 自分たちが参画できるまちづくり
 - ・ スマートシティで街を知り、自分たちで街の利便性をよくするための行動ができるまちづくり
 - ・ まちの欠点(困りごと)からビジネスチャンスや導入効果が予測できる仕組みづくり
…スケッチラボがエンジンになると期待
- Smart City Squareの拡充による利便性向上
 - ・ 道路工事の申請から工事個所公開のフローは秀逸
 - ・ 国道、県道を含めて、県のスマートシティ等と連携し、全道路カバーを期待
 - ・ 道路以外の適用可能な業務への水平展開